

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100011		
法人名	社会福祉法人真栄会		
事業所名	グループホーム菜のはな		
所在地	神崎市千代田町詫田989番地		
自己評価作成日	令和7年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和7年2月21日	外部評価確定日	令和7年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・法人では感染症防止のため外部との接触は極力避けているが受診や家族、ご利用者の意向での外出、車を降らないドライブなどは継続して行っている ・室内で行うレクリエーション、誕生会、季節ごとの催事などご利用者の笑顔が引き出せるような行事を計画し実行している ・協力医療機関医師、看護師と連携を取りご利用者の健康管理を行っている ・重度化され医療的処置が必要となりグループホームでの生活が継続できなくなった方については隣接する特別養護老人ホームこすもす苑入所がスムーズに行えるよう支援している ・機械浴を設置し個浴での入浴が困難になられた方も安全に安心して身体に負担のない入浴介助を行っている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームに隣接し法人内の特別養護老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等がある。研修、会議、災害時には法人内での協力体制が構築され法人の強弱が活かされている。グループホームでは利用者一人ひとりの生活を大切にされ、その日の気分や体調に応じて生活リズムを調整されている。利用者のペースに合わせサービスを提供するために情報の共有や小さな変化に気づけるように心掛けられている施設である。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新型コロナウイルス感染症が5類に移行後も法人では移行前の感染対策をとっており外部との接触は極力避けており地域とのかかわりは出来ていない。 理念に掲げている『自由で楽しく生活できる居場所の提供』に関しては個々の思いに沿ったレクリエーション等が提供できるよう職員間で話し合い月行事や日常の中での催事を行い、忘れられても楽しい思いが残るよう掲示板に写真や作品を掲示している。	理念に掲げられている自由の生活とは、利用者の方が望まれる生活であり、今どのようなことがしたいのかを確認されサービスを提供されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策のため外部との交流は中止している。敬老の日前後には各自治体よりお祝いの品を区長さんが届けられている。	以前は、法人内の祭りに地域の方が参加され関係性を構築されていた。現在は、感染症予防の観点により、外部との交流を制限され関係性は希薄となっているが、散歩の際に地域の方が挨拶や手を振っていただけることがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部との交流は中止している。 入居申込や見学に来られた方々には困りごとなどを聞き認知症介護の方法をアドバイスしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の日常状況、月行事、受診状況、事故報告等は郵送にて行っている。 文書で意見、要望など感想をお願いしている。	書面での情報発信を主にされ 意見などを調査されていたが、今月末 より対面での開催が予定されている。		

2/15

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前は運営推進会議の席で取り組みを報告しアドバイスもらっていたが疑問点や重要事項に関しては来庁し、電話等にて情報の連絡を行っている。	市が主催する会議や研修会を通し関係性を構築することで、事業者の運営に伴う相談などができるようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会、会議、研修を通じ身体的拘束の禁止、具体例を理解している。玄関の施錠に関しては自施設が道路に面しており事故を防ぐ目的で日中、夜間とも施錠しているが外に出たい希望がある方には職員が付き添いを行い外に出かけている。	法人内で委員会を開催し、管理者が事業所へ伝達を行うようにされている。研修に関しては、Web を使用し職員全員が参加できる仕組みとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修、スピーチロックの指摘等を行い虐待が見過ごされる事がないよう注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については研修で全職員が受講している。成年後見制度については現時点で利用されている方はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項の説明は分かりやすい言葉に変え説明している。改定等は文書で説明を行い同意を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時や各連絡時に要望等を尋ねている。職員には申し送りノートを活用して周知し、施設運営に係る事柄は法人で対応している。	玄関に設置されている意見箱に関しては、以前に投函があり、管理者と法人で共有されすぐに対応されている。基本的には、面会や状況報告の電話の際に意向を把握されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人施設長、事務長との面談時に意見や提案を聞く機会を設けている。早急な解決が必要な場合はその都度面談を行い解決している。	法人施設長との面談を定期的に行い、現場の意見を反映されているが、日頃よりコミュニケーションを図り、業務の見直しなど適宜取り組まれている。職員の腰痛予防に対する取り組みとして、浴室を増築し、機械浴を導入をされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談時に目標達成進捗状況、勤務状況の把握を行い職場環境の整備、労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での集合研修は行っていないが各部署に適した研修内容をwebにて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	集合研修への参加は今年度末より行い同業者との意見交換等交流する機会があり研修報告を行い自施設のサービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前調査で家族同意のもとケアマネジャーよりアセスメントを提出してもらい状態把握を行っている。入居前の面談時に本人や家族より詳しい状況を説明してもらい要望も伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に家族と話し合いを持ち不安な事や要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族に了解を得たうえで支援されている。サービス事業所、ケアマネジャーより詳しい聞き取りを行い今後のサービスの提供、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持ち生活できるよう家事手伝い等と一緒にいき他ご利用者と円滑な関係ができるようコミュニケーションを図っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は制限されているが家族との絆が保てるようケアプランに面会をお願いする文言を入れ、面会時には職員が話が弾むまで付き添いを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	幼少の頃の事、家族、友人、生まれた場所など回想法を用い話しを行っている。家族の名前を忘れられないよう会話の中で家族の名前を聞き、忘れられている時は職員が答えている。	感染症予防により、面会はリビングの一角で行われ、感染予防に努め可能な限り関係性の継続ができるように支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が皆さんと早く馴染めるよう本人の生活歴・性格・住まい等把握し職員が間に入りコミュニケーションを図っている。性格的に合わない方に関しては食事の席を移動しトラブル回避している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方に関して併設の特別養護老人ホームこすもす苑に入所された方は施設職員や家族と連携を図っている。家族より要望があれば相談やアドバイスをを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	要望や意向は一緒に話しをする中で聞き出し可能な限り希望に添えるような支援を行っている。意思表示が困難な方に対してはケース検討等通じ職員と話し合いを行っている。	自然なコミュニケーションの中で利用者の意向を把握し、職員が情報を共有されている。コミュニケーションが難しい方でも表情や反応から望まれている支援を検討し、サービスに反映されている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメント等にて生活歴、生活環境等を把握している。知り得た情報は職員に周知している。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録システム、申し送りノート等を活用し状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース検討、日常状態を申し送り、その都度話し合いを行いながら介護計画に反映できるよう意見やアイデアを出し合っている。状態変化時には計画の変更を行っている。	ケース検討を基にモニタリングや担当者会議を開催し、6ヶ月ごとにケアプランの見直しを実施されている。ケース検討では小さな変化にも気づけるように一人一人のノートを準備され 情報が共有されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録システムを活用し日々の様子を記録している。申し送りノートを活用し情報を共有している。ケース検討で介護計画の継続、見直し等の意見を出し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の意向、状況に対し話し合いを行い、出来る限りニーズに対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策で外部との接触は極力控えている。以前は外食、買い物等を行っていた。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医に関して希望を聞いている。ほとんどの方がかかりつけ医があっても協力医療機関医に変更されている。かかりつけ医変更時には情報提供をお願いし、適切な医療を受けられるようサポートしている。	以前からのかかりつけを継続することも可能であるが、協力医療機関から週に1回の往診を受けることができる24時間協力体制が構築されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時、気づき等はその都度看護師に報告、相談を行い助言を受けている 特変時には協力医療機関医師に報告し指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族と受診し情報提供を行っている。家族と共に医師からの説明を受けている。退院に向け医療連携室、看護師と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に重度化した場合、終末期の施設の方針を説明している。医師が看取りと判断し家族説明をされた後、事業所での看取りを希望された家族には指針の説明を詳しく説明している(出来る処置できない事など) 系列の特別養護老人ホーム入所、病院入院を希望された方に対してはスムーズに入居、入院ができるよう各関係機関と連携をとっている。	契約時より終末期の意向を確認し、施設内での看取りを希望された場合は、法人内の看護師や協力医療機関との連携を図り対応することが可能となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症防止のため対面での研修等は行えていないがWEBにて応急手当の仕方、初期対応の研修を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人では年に2回避難訓練を行っているBCP(事業継続計画)を法人、各事業所で作成し職員に周知している。地域の方の訓練参加は見合わせている。	定期的に避難訓練がされており、事業継続計画に基づいた訓練も実施されている。以前に隣接する法人内の事業所へ避難誘導を行った事例もあり、その経験を生かして事業継続計画を作成されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇チェックシートの活用、職員同士が注意し合える環境を目指し、人格を尊重した言葉かけが出来るよう話し合いを行っている。	接遇研修については Web で行い、事業所 独自のチェックシートを活用し、月に1回 説明の振り返りを行われている。契約時より利用者の写真掲載など個人情報についての取り扱いも家族に確認をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お喋りやレクリエーションを通し希望、要望を聞き出している。職員と馴染みの関係が出来何とも言えるような環境作りを行い、自己決定が出来るような質問方法での言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の介護ができるよう個々に合った日常の過ごし方など職員間で話し合い実践している。意思表示が出来る方には意向に沿った過ごし方が出来るよう支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	就寝前、起床時に更衣を行っている。好みの衣類を用意し洗顔時には化粧水を準備している。整髪、洗顔を行い身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症予防を施行しているため食事の準備、片付けは職員が行っている。食事も職員は離れた席で摂っている。	隣接する特別養護老人ホームより食事が提供され、事業所ではご飯と朝食時の汁物が調理される。おやつレクでは ケーキや饅頭など利用者と一緒にも作ることも取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が献立を立て委託業者が調理を行っている。嚥下状態により刻み食を提供、水分は食事分を入れず1日1200ccを目標に嗜好品等を活用し行っている。食事量、水分摂取量の集計を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝前に口腔ケアを行い洗口液を使用し口腔内の清潔保持を行っている。就寝前の口腔ケアは自力で出来る方にも磨き残しがないか確認を行い介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し基本はトイレ誘導を行っている。入居前に紙パンツを使用していた方も出来る限り布パンツを使用できるよう排泄の自立に向けた支援を行っている。	基本的にはトイレ誘導も実施されているが、状態に応じて夜間帯のみ紙パンツやポータブルトイレを使用する場合もある。オムツは 個人負担となるため可能な限り自立支援を促し負担の軽減に努められている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後の冷たい牛乳の提供、必要量の水分の提供を行っている。体操や腹部マッサージ等自然排便を促す取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は午前、午後毎日行っている。入浴拒否がある方に対しては時間を置いたり次の日の入浴など臨機応変に対応している。浴槽をまたぐことが困難となられた方には機械浴を使用している。入浴ができない方に対しては清拭で対応している。	週に3回以上の入浴を基本と考えられ、入浴を嫌がられる場合などは清拭やドライシャンプーを使って可能な限り清潔の保持に勤められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態や本人のペースで静養できるよう言葉かけを行っている。就寝前にパジャマに着替え居室内の温度調節、寝具調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は職員が行っている。薬情と既往歴を照らし合わせ薬の目的、副作用、用量等については理解している。薬情のファイルを作成し症状の変化の確認は常時行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持ち張りのある日々を過ごすことが出来るよう一人一人に合わせた家事手伝いを職員が一緒に行っている。嗜好品を提供するための買い出しは担当が行っている。歌番組を録画いつでも視聴できるよう支援している、カラオケやゲーム等興味を持ち楽しめるようなレクリエーションを企画している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防のため外出支援はドライブに変更している。家族や本人希望の外出は感染症罹患患者がおられない時は行っている。	ドライブを実施されているが、感染予防のために外部と接触しないように心掛けられている。また法人内の敷地にある桜を見に行くなど可能な限り外出の機会を設けられている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族が行っている。 お金を所持されている方はおられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎは行っている。 本人からの希望は時間帯により行っている 年賀状、手紙は家族からは来ているが返事を書かれる方はおられない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光、音、温度、湿度に関しては適宜調整を行っている。フロアに季節ごとの花を飾り庭の木々や外の景色を眺め季節を感じられている。	家庭的な雰囲気を感じていただけるように木造となっており、天井が高く光が差し込んでいる。リビング内で、寛ぐスペースと食事のスペースが分かれ、レクリエーションで作られた作品などが掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに2か所ソファを設置し気の合う方々とテレビ鑑賞されたり事務所前のソファで一人ゆっくりされたりと思い思いに過ごされるよう空間作りの工夫を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に思い出のある品を持って来られるよう家族と話し合い椅子やタンスを持って来られる方、写真や置物を飾る方が多くおられる。	居室には自由に持ち込むことができテレビや椅子、遺影を持ち込まれている。制限がないために、家庭の雰囲気を居室で作りあげることができるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分からず不穏にならないよう居室に目印やトイレ等文字で場所が分かるようにしている。文字が理解できない方には〇〇番目など言葉かけを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない